

令和4年度 第1回 図書館協議会 会議録

日 時：令和4年7月27日（水）午後1時30分～午後3時55分

場 所：あけぼのパーク多賀 2階 大会議室

出席者：國松会長、夏原副会長、藤谷委員、西山委員、土坂委員、小林委員、宮野委員、事務局（山中教育長、大岡課長、川瀬館長、建部係長、田中、山口）

欠席者：長谷川委員、松宮委員

1. 教育長挨拶

皆様こんにちは、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今年度第1回の多賀町立図書館協議会を開催でき、皆様にはこれから2年間お世話になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

図書館は、誰もがいつでも気軽に利用でき、町民の皆さまの調べたいというご要望に、応えられる施設でありたいと考えています。人口8,000人以下の町の図書館では、貸出冊数が1位と、たくさん利用していただいています。まだまだ課題はありますので、皆様のご意見をいただけるようよろしくお願いいたします。

多賀の図書館は、博物館と文化財センターとの複合施設であり、また近くには公民館もあります。このような地域の中で、役立つ施設の一つとしての存在感を高めていければと考えています。

コロナウイルスの影響もここ3年間、続いており、この間、様々にご迷惑をおかけしていましたが、今後もコロナウイルス感染対策を行いながら、図書館の活動がしっかりできるようにしたいと考えています。

それでは、本日の会議が意義のあるものになるよう、よろしくお願いいたします。

2. 令和4・5年度多賀町立図書館協議会委員辞令交付

出席者に教育長から委嘱状を交付。

3. 令和4・5年度多賀町立図書館協議会委員について

(1) 会長・副会長の選出

会長に國松委員、副会長に夏原委員を選出

(1) 会長挨拶

会長にご指名いただきましたので、2年間、務めさせていただきます。図書館協議会は、町民

の皆さんの意見を聞いて館長に意見を出していくところですので、皆様と一緒にできるだけ図書館をバックアップして、提言などの支援をしていきたいと思っております。委員の皆様にはご協力をお願いします。

(2) 副会長挨拶

皆さんこんにちは、どうぞよろしくお願いいたします。

4. 報告・協議事項

(1) 令和3年度 実績報告について

【事務局】

令和3年度の図書館の活動を資料により報告。

前年度は、コロナの影響もあり、事業等が制限され、特別な事業を行えませんでした。コーナー展示など、来館者へのサービスに重点を置きました。また、職員の積極的な研修参加を行いました。

【國松会長】

事前に送られた資料についてどなたか質問はありませんか。

【國松会長】

令和3年度事業報告は、既に年報等で公表されているものですか。

【事務局】

毎年度発行する「あけぼの年報」の中で図書館の活動報告を記載していますが、まだ発行していないため、掲載する予定の図書館部分を資料としています。

【川瀬館長】

報告書とは別に、利用状況を知る上での指標を別に用意しました。

資料により、それぞれの指標を説明。

この1年間で1回以上貸出をした人で、かつ、町内の方の人数を、町の人口の何%になるかを表した指標「実利用率」が18.7%となっています。図書館が町内の方にどれだけ利用されたかという指標です。図書館の指標としては大事だと思っておりますので、この指標の推移を見ながら、20%を図書館運営の目指したいと思います。

【委員】

コロナ禍ということで安全のため休館されていたと思いますが、県内では、密にならないように入館者を制限するなど工夫して開館していた図書館もありました。休んでいる間に、展示や、研修などをされたことは良いことだと思いますが、町民には見えないことです。長い休館を残念に思っている町民は多いと思います。このことについてどうお考えですか。

【川瀬館長】

県内では、多賀町立図書館と草津市立図書館との2館だったと思います。

【國松会長】

全体的な流れとして、一昨年、緊急事態宣言が出されたとき、1千m²以上の施設については利用が制限されました。全国で図書館が休館し、県内でも4月中旬から5月中旬まで休館していました。その後は、他府県に比べ、県内では、休館日を出来るだけ短くしたいと、かなり早く開館していました。6月までには、ほぼ県内の図書館は開館していました。昨年度夏に緊急事態宣言が出されたとき、草津市は南草津図書館の周辺で感染が急増したために8月中旬から1か月休館していました。その時、多賀も休館していましたが、県内では、ほとんどの図書館が開館していますが、これは全国的にみても少ないと言えます。近畿でも大阪などは相当長い間休館をしていました。

【大岡課長】

一昨年度、休館させていただきましたが、移動図書館車を各集落に巡回させていました。令和3年度も予定どおり巡回しています。また、この「あけぼのパーク多賀」は、複合施設であるため博物館も併設しています。全体での利用者も多く、あけぼのパークとして臨時休館をさせていただきました。

【委員】

コロナ過での貸出冊数という説明がありました。素人考えなのですが、行動制限がある中、家の中で過ごすことが多くなってくる。この機会に、本の大切さが再び見直されて、本の必要性を国民が感じるのではないか、その頃そんなことを考えました。コロナの影響で、逆に貸出冊数が伸びてくるのではないかと思うのですが、全国的に見てそのあたりはどうなのでしょう。

【川瀬館長】

貸出が伸びたところはあると思いますが、コロナ禍で増えたのか分かりません。対策として貸出冊数の制限を広げることで、以前より借りやすくなり利用が増えることはあると思います。また、いくつかの図書館では、図書館員の選んだ本でパックなどを作って提供するなどの工夫もしていました。本来は、図書館に来て自分に必要な本を見つけていただくことが大切だと思います。ここ多賀町では、コロナ過でも、必要な資料を選んでよく利用していただいていると思っています。答えになっていませんが。

【委員】

多賀の図書館では、今まで以上に本を読みやすくするような取り組みをされましたか。借りやすくするために冊数を増やすと言われましたが。

【事務局】

町政60周年の記念で、貸出上限を15冊から30冊に変えましたが、期間内で読める冊数もあり、これ以上は増やすことは考えていません。移動図書館車の巡回や、手に取って選んでいただくために、興味を持ってもらえるコーナーの設置、書架の配置の工夫などを行いました。

【國松会長】

比較できる数字として、国民一人当たりの貸出冊数があります。令和元年は、5.0冊、令和2年度では、他府県の図書館が3か月近く休館だったこともあり、4.18冊で、1冊近く減っています。日本の人口だと1億冊、実際に貸出量は減っていると言えます。図書館の歴史の中で、これだけ長く休んだ経験がなく、コロナ感染に対応したサービスをする、多くの図書館で、子どもが来なくなったということがあり、この状況はなかなか戻らず、県内でも同じです。これからは、様々な方法を工夫していく必要があるのかもしれませんが。

【委員】

昨年度の事業報告では、ただ、時系列にたくさんの事業を並べてあるだけなので、説明されても、ああそうなのかという感想になります。どういう予定を立てて、何が出来たのか出来なかったのか、特別なイベントを予定していたが、出来たのか出来なかったのかということを説明してほしいです。

【事務局】

令和2年度で中止していた「おはなしのじかん」、「映画会」は実施することが出来ました。映画会は昨年度8回を予定していましたが、コロナで休館したために7回となっています。お話の時間は、12回を予定していましたが、映画会と同じく休館で中止したため10回の開催となりました。特別な事業は、コロナ禍であり、直前に中止になることも予想されましたので、全体を通して大きな事業等は行いませんでした。

【川瀬館長】

休館したことや、開館時間を30分短縮していたことで、時間的な制約は大きかったです。それに、集まることにも制限を迫られたので、事業が制約されていました。報告の後の方に載っていますが、予定していて出来なかったものに線を引いています。例えば、七夕のおはなし会では、飾りつけなどしたかったのですが出来ませんでした。

【委員】

令和3年度の事業報告でしたが、町内の図書館のことを十分に知らない、こんな事業を図書館でしていますという、アウトラインがわかる説明をしていただいてから、その中で議論をするというほうが、経験のない新しい委員にとってはありがたいと思いました。

【川瀬館長】

説明するにあたって、私の方で、職員に図書館の事業を、ただ順に資料に沿って説明するのではなく、今年度の主な事業や、コロナで制約されたことなどの、特徴的なものを説明するように指示していましたので、申し訳ありません。

【委員】

就学時健診時のところの利用カード登録統計の表について、項目に数値がないものや、数字

の合わないものがあり、項目と人数の関係がどうなっているのか説明をお願いします。

【委員】

ホームページへの更新について随時と書いてあるのですが、昨年、ホームページが更新されていないという意見が出ていたのですが、その後、ホームページが更新されましたか、更新は随時なのか教えてください。

それと、宅配サービスについて、どういう形でされていたのか説明してください。

【事務局】

移動図書館車で小学校の巡回を開始した頃、カードを作っていない子が多く、なんとかカードを作ってもらえる機会はないかと考えていました。小学2年生の図書館見学でも、カードを作っていない子が見受けられ、就学前検診時なら、保護者の方もおられるし、子どもたちも全員揃うので、平成27年度から始めました。最初の頃は、人数把握をしていなかったのですが、途中で統計を取るようになりました。当初は数を把握していないこともあり、ところどころの項目が空いています。

【國松会長】

空いている部分というより、表が分かりにくいですね。表の作り方を考えた方がよいと思います。統計として更新対象者が、要らないのではないですか。

【川瀬館長】

BMが学校を巡回するために児童生徒の把握が必要になってきたため、表として作成しますが、更新対象者が実績に必要なのではという指摘も含めて、表を精査します。

【國松会長】

次にインターネットのHPの更新が随時なのか、指摘されたことが出来てるのかということについてどうですか。

【事務局】

ホームページの中で、図書館だよりは毎月更新しているのですが、内容によっては挙げられていないものもあります。早急に挙げられるようにしたいと思います。何度もご指摘いただき、申し訳ありません。

【國松会長】

それでは最後の宅配サービスについてお願いします。

【委員】

宅配のやりかたというか流れを教えてください。借りたい人が、本のタイトルを電話してきて、それを郵便で送るのか、直接職員が持っていかれるのかということです。

【事務局】

宅配は、図書館に直接来館できない方に向けてのサービスとして始めました。やり方としては、それぞれの方の事情に応じて行っているのですが、最初の方は、この本が読みたいという依頼があれば、その都度職員が持って行く、3番4番の方は、新刊案内リストの中から次に持ってきてほしい本に○をしていただいて移動図書館車で持っていくというものでした。このように宅配の実施方法については、特にこういう形で行うということを決めていませんでした。

【國松会長】

これは令和3年度の実績報告ですが、この表では、以前の状況が記述されています。令和3年度の実績報告なら、このような事業をしているが、令和3年度は対象者がありませんでしたという報告をするべきです。実績と分けて記述した方がよいと思います。

【事務局】

修正します。

【委員】

入学前に図書カードを作ることが目的なら、小学校では毎年2月に一日入学というものがあるので、その時に申込書をもってきていただくなどしていただければ、就学前検診と同じように、学校としてご協力できます。

【委員】

今の時点で、登録をしていない子が何人いるのか教えてもらえると、逆に、保育園・小学校でどのくらいの子が移動図書館で本を借りていながわかります。そして、更新されていない場合はどうなるのかということも気になります。知っているお子さんで、図書館の人にカードの利用更新が出来ていないので本を借りられないと言われたと聞いたことがあります。更新が出来ないのは、お母さんが忙しくて連れてきてくれないという子もいました。カードの更新の用紙を渡すなど、なにか手立てを考えてもらえるといいのですが。

【川瀬館長】

ここにきて最初にBMで保育園に来た時に、有効期限で貸出ししなかったことがあります。貸せないということは図書館員としての一番したくないことなので、後で確認することで借りられるようにすぐに修正しました。それと、利用カードを作るということは、個人の意思なので、まとめて作るというのはどうかと考えています。小学校に入学される時全員にカードを作ったりしている図書館もありますが。そうすると登録率が上がります、しかも有効期限がないとずっとそのままになります。図書館まで来られない子どものために、学校で貸出しをするのなら、カードを作ることや、カード忘れ、更新忘れを後で確認して貸し出すことが必要なので、学校図書館や学校と一緒に考えられればと思います。

【委員】

年齢別の利用割合で、中学生と高校生のところは1%となっています。小さい子どもたちに

は、おはなしの時間や、映画鑑賞などの機会がありますが、読んでほしい年齢である、中学生・高校生などへの対応をどうされていくのか、なにか事業をされるとかメニューを考えておられるのかお聞きします。

【川瀬館長】

まさに、ここが公共図書館の課題で、どの図書館もその年代への資料提供を何とかしたいと考えています。中学生は、学校には集まっているので、学校図書館と公共図書館が連携を図ることが一番大切になると思います。また、図書館が少し山の方に入っているので、中学生が一人で来るのは難しいかと思います。移動図書館車は、全域サービスでの役割が大きいのですが、中学校への巡回も、実際にできるかは分かりませんが良いのかと思います。図書館では、中高生に向けた資料を積極的に集めて、その資料情報を適切に発信することだと思っています。

【委員】

さんさん号が中学校の坂を上ることが出来ないと以前に聞いたことがあります。ふれあいの郷に図書館車がある時間が2時40分から3時10分で、まだ授業をしている時間です、生徒が帰宅する時に借りられるのがいいのかと思いますが、時間帯は調整が難しいのでしょうか。

【事務局】

巡回日は、水曜日の部活のない日を選びました。今年度、少し時間の見直しをしましたが、かえって生徒が来られない時間の合わせ方になりよくなかったと思っています。次年度は、巡回時間の変更が必要だと考えています。

【國松会長】

一旦ここで令和3年度の事業報告については終わります。
細かい統計を出しているのですが、それぞれに質問すると説明が不十分なグラフや表が多くみられます。説明できないものを町民の方に報告しても意味がないです。また、量も多いかもしれないので、もう少しコンパクトにまとめて見やすくする工夫をしてはどうでしょうか。そして、複合施設でも、それぞれに機能が違うので、図書館の報告を出した方が良いと思います。今年度は、難しいと思いますので、来年は是非、コンパクトでビジュアルな分かり易く見やすいものを検討してください。

(2) 令和4年度 事業計画について

【事務局】

今年1年間の図書館の事業報告を資料に基づき説明。
令和4年度の図書館の取組として、先ず1つ目が、利用支援サービスとして、移動図書館車の巡回。次にしょうがい者・高齢者・外国人のための資料収集、そして、宅配サービス再開のための運用規定の策定。2つ目として、子ども読書活動推進事業で、おはなしの時間（月1回）、そして、読書感想文の書き方講座の開催をします。3つ目は、複合施設ですので施設連携事業として、象をテーマにした講演会、子どもの事業に参加してくれた方への象のスタンプカード

の配布。最後に、4つ目として、これからの多賀町立図書館のあり方を基に課題解決に取り組みます。裏面は、図書館業務としての運営の重点を7つ挙げています。次に今年度行う主催事業と、共済や後援、協力・連携して行う事業を挙げています。

【國松会長】

館長にお聞きします。令和4年度の図書館の取組についての説明ですが、図書館の事業計画と、図書館の取り組みの両面の説明資料はどちらが表になるのですか、どちらが今年度の図書館の運営の重点になるのかよく分からない。

【川瀬館長】

図書館事業計画が表面で、通年の計画です。裏面が図書館の取組で、令和4年度の具体的な重点事業です。裏と表の順番が逆の説明になってしまいました。本来、図書館の中長期の運営計画があって、単年度ごとの計画があるわけですが、現在ありませんので、図書館事業として重点目標が表面で、令和4年度の具体的な図書館の取組が裏面になっています。

【國松会長】

既に、4カ月も過ぎていますが、今年度の事業についてご意見はありませんか。

【委員】

ホームページを見ている人は実際に少ないのではと思います。紙媒体でも、回覧板や町の広報で来ますが、見てほしい若い人は見ていない。現在では、メールがラインに代わっているし、紙媒体は、フェイスブックやツイッターに代わっている。来てほしいと思う人に伝えるのなら、その人達が見る媒体で情報発信しないと伝わらないと思います。中学高校生くらいの、理論的な物の考え方や幅広い知識を吸収するような世代が興味を持つ情報発信の仕方を考えていかないと、高齢者や小さな子どもたちなどに向けてサービスは大切なのですが、来てほしいと思っている層に向けて興味をもってもらえる事業を重点的にやらないと自習だけに来るようなことになり、利用者層の構造の変化は望めないと思います。取り組みの中で、そういうところをもっと重点としてやっていく必要があるのではないのでしょうか。

【川瀬館長】

図書館では、あれもこれもしましよ、と言ってもなかなかできないので、年度毎に課題を一つずつ解決していこうと思っています。今年度であれば、しょうがい者に向けたサービスを重点としています。しょうがい者に優しい図書館を作るための一つひとつを見直していきたいと思っています。YAサービスとして、小学生に向けた取り組みとしてできるのは、今の時点で誰がカードを作っていないのか把握して、学校でカードを持っていない子にカードを作ってもらい、それでBMを使ってもらおうという、できそうなことからやっていきたいと思っています。

【委員】

そういったカードを作るきっかけに、子ども達にどうしたら図書館に来るのか聞いてもらう

などして、それを生かそうとしないと、新しい利用者の開拓は難しいと思います。そして、その子たちに継続的に情報発信する仕組みを、彼らが使うもので作っていかないと、紙で配っても実際に見ないことになってしまうと思います。

【川瀬館長】

若い人に伝えることは難しいです。ホームページを作っても更新するのに大変な力が必要になってきます。伝えることに、どこまで力を使えるか考える必要もあると思っています。今できる取り組みを考えると、中学校1つと小学校2つなので、移動図書館が、学校図書館と図書館の連携に利用しやすい事業なので、少しずつでも進めていきたいと思っています。そのために子ども読書活動推進計画もあります。中学校小学校との連携を考えていきます。

【委員】

一度、図書館の事業を、年齢を縦軸に、時間を横軸にして置いてみて、どの部分がしっかりできているか、できていないか、そういう表を作ってみてはどうでしょうか。この部分は評価できるな、ここは落ちているな、というのは、マトリックスをつくればよく分かるので、年間計画を文書でまとめるだけでなく、表に当てはめて見ていくと、今の職員体制でできるものできないもの、強化できるもの、ここはもう少し薄くてもいいのではないかとということが見えてくるので、仕分できると思います。

【委員】

図書館でもいろんな事情があって、いろいろできないということもよく分かります。人も経費も揃わないとできないので、今までやってきていることをベースにしていこうということだと思います。新しいことをやっっていこうとすると、今言われたように、整理をして、見直しをして、増やすところと減らすところのメリハリも必要だと思います。表を作ることもありますし、他の方法もあると思います。いろいろと大変ですが、よろしくお願いします。

【川瀬館長】

図書館のベースは、カウンターだと考えています。カウンターがしっかりしていないと図書館の役割は果たせない。図書館をよく見せようとする、たくさん行事を新聞に載せてもらって、こんなにやっていますよとなります。しかしそれで、どんどん利用が増えるとは思っていません。そこを気にするより、カウンターで利用者が必要としている資料を手渡せる準備をする方が良いと思っています。言われたように、取捨選択しながら、マトリクス図での分析も必要かと思いますが、今年度は、まずは目の前のことに取り組んでいきたいです。

【委員】

今年度の事業計画の中で、像のスタンプカードの配布とありますが、現在どのくらいの配布があるのか教えてください。

共催・後援・協力・連携事業の中で、保育園・幼稚園・こども園などへの読み聞かせとあり、ますが、去年は一度も参加されていませんでした。今年度は入っただけなのでしょうか。

【事務局】

協力・連携事業ですので、図書館員が出向いておはなし会を行うものではありません。主催は園で、地域学校協働本部が協力団体となります。園・学校へ来てもらうボランティアさんに対して協力をしています。どういった本が読み聞かせに適しているかなどの絵本の選び方などのアドバイスをを行っています。

【委員】

前年度の図書館協議会でも提案させてもらいましたが、3歳児から5歳児までくらいの園児ならこのような絵本が人気ですよ、小学生なら1年生から6年生までで、このような本がいいですよということを手書きでもいいので書いて貼りだすなどしていただけると、探すときの目安になり選びやすいのですが、いかがでしょうか。直接、職員の方に聞いてもよいのですか。

【事務局】

絵本の読み聞かせなどで分からないことはお尋ねいただければお答えします。人気のある本については、一応ベストリーダーとして館内掲示していますし、広報やホームページでも案内していますので活用ください。

ゾウのスタンプについては、29人の方にスタンプカードを配布しました。年齢別には出せておりません。

【委員】

毎年言っているのですが、今年の計画を作る時に去年の反省ができていれば、出来ている部分と、出来ていない部分をどうするのかというPDCAが回っていないと思います。出来ていないものを、こういう理由で今年はります、やりませんという説明が必要です。そして、委員の意見に対して回答が分からずじまいで流れてしまっています。いっても意味がないということになってしまうので、答えを明確にしてほしいです。最後に、組織での目標を切り分けて、明確にしないと、漠然と文章で説明されても、どこに力点を置いてやるのかが見えてこないです。町民にいかにかPRするのか、どこに注力するのか、年齢層のどこにするのか、どのできていない事業に力を入れたいのか、そういったところを分かりやすくしてください。

【國松会長】

館長は、事業計画や、事業評価について十分に経験を持っているので、是非今年度から取り組んでほしい。ところで、この事業計画はどのタイミングで出ているのか、そして、どのような位置づけになっているのか。協議会の委員の意見を聞き取って事業計画を修正するとなると、もう半年たっていることになるのですが、どういう扱いになっているのでしょうか。

【川瀬館長】

教育委員会の4月当初の定例会議で、教育行政方針として説明しています。また、生涯学習課の今年度取り組み目標の中で、図書館の取組として挙げています。言われているような、具体

的に前年度できなかったものに対して、今年度はどうするといった計画にはなっていません。今年度重点とすることを計画としています。

【國松会長】

町全体の位置づけはそうだと思いますが、やはり、図書館で計画を作るべきです。図書館の計画は、館長が出すので、そこは慣れているのだから、今年度何がしたいのかがしっかり、分かる計画を作ったらどうでしょうか。

【川瀬館長】

以前に図書館協議会から答申をもらっています。それが運営の基本になっています。答申を基にある程度絞って、これは5年後にはできているといった計画を作りたいとは考えています。今ある課題もありますので優先順位をつけて、進めていきたいと思っています。

【大岡課長】

生涯学習課では、それぞれの担当が今年度重点的に行う施策を決めています。図書館からは「しょうがい者・高齢者を含む利用弱者に優しい図書館づくり」ということで、宅配サービスの再開等を重点的に行っていくということ、4月の時点で明確にしています。しかし、それに基づいた事業が分かり易く展開された内容になっていない。今年度半年ありますので、次回ご報告できるようにまとめたいと思います。今後も皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

【國松会長】

これで協議を終わります。長時間ありがとうございました。次回の予定はいかがでしょうか。

【事務局】

この後3回の会議を予定していますが、県の図書館協議会の「集い」が11月頃にあると思いますので、10月頃できればと考えています。

【山中教育長】

本日はありがとうございました。長時間にわたって、皆さんから様々な御意見、ご指摘をいただきありがとうございました。いただいた要望に応えられる図書館を目指していきたいと思っています。今年度から新しい体制になりましたので、人員は限られている中ではあるのですが、前向きにしっかり考え、できることはやっていきたいと考えております。どうか今後もよろしく願いいたします。

【事務局】

本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございました。

令和4年度 第1回多賀町立図書館協議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。